

公表

事業所における自己評価結果

事業所名 神宮前ぼっぼ

公表日

令和7年 3月 6日

	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点
環境・体制整備	1 利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。		○	テラスやコミュニティスペースの空間を利用し、出来るだけ分散して過ごしている。	
	2 利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	○			人員配置は満たしているが、更に職員数を増やすことができると、支援の質の向上に繋がることが期待されるため、求人等で募集をしている。
	3 生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	○			
	4 生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	○			
	5 必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	○		子ども達が混乱しないように視覚的支援を行い、必要に応じて個室を個別の部屋や場所として使えるようにしている。	
業務改善	6 業務改善を進めるためのPDCA サイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画しているか。	○		業務を行う上で、問題点や気になる点がある場合には、職員間で話し合いを行っている。	
	7 保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	○			
	8 職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	○			
	9 第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。		○		現在、第三者による外部評価は実施を行ってない。必要性を検討した上で、今後検討していく。
	10 職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	○		法人職員に向けた研修は定期的に行っている。	外部の研修に参加する機会が少ないため、今後は積極的に参加をしていく予定である。
適切な支援の提...	11 適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	○			アンケートの配布段階では、作成中であったため、公表されていなかったが、作成後、速やかに公表を行った。
	12 個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成しているか。	○			
	13 放課後等デイサービス計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	○		日々子ども達と関わる上で、職員間で様子を共有し、課題等があれば支援について検討を行っている。	
	14 放課後等デイサービス計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	○			
	15 こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	○			
	16 放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	○			
	17 活動プログラムの立案をチームで行っているか。	○			
	18 活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	○			

供	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせて放課後等デイサービス計画を作成し、支援が行われているか。	○			
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	○			
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	○		振り返りの時間を設け、その日の支援についての情報共有や改善点等の話を行っている。	
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	○			
	23	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	○			
	24	放課後等デイサービスガイドラインの「4つの基本活動」を複数組み合わせ合わせて支援を行っているか。	○			
	25	こどもが自己選択できるような支援の工夫がされている等、自己決定をする力を育てるための支援を行っているか。	○		宿題、おやつ、自由時間、活動等、様々な場面で子ども達が選択する力を伸ばしていくことができるための支援を行っている。	
関係機関や保護者との連携	26	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	○		管理者、児童発達支援管理責任者が参加している。	
	27	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。			教育機関と連携して支援を行う体制は整えている。	医療（主治医や協力医療機関等）との直接的な関わりや連携が行えていないため、今後は必要に応じて体制を整える必要がある。
	28	学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、こどもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っているか。	○		毎月下校時刻一覧表をいただいたり変更時に速やかに連絡を下さったりすることで、トラブルなく下校時刻に合わせて送迎を行っている。	
	29	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めているか。	○			
	30	学校を卒業し、放課後等デイサービスから障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等しているか。		○		今後、必要に応じて相談支援専門員と連携を図り、情報共有を行い、スムーズに支援内容が移行できるようにしていく。
	31	地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要等に応じてスーパーバイズや助言や研修を受ける機会を設けているか。		○		今後、必要に応じて検討を行っていく。
	32	放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他のこどもと活動する機会があるか。		○		保育園に併設しているが、直接的な関わりは持っていない状況である。今後、必要に応じて検討を行っていく。
	33	（自立支援）協議会等へ積極的に参加しているか。	○			
	34	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	○		利用日の子どもの様子、状況等は送迎の際にお伝えしたり、個別支援計画書の作成時においての面談の際にお伝えしている。	送迎時になかなかお伝えすることが難しい保護者もいるため、その場合への対応を考えていく必要がある。（定期的な面談やLINE等の連絡ツールの活用）
	35	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム（ペアレント・トレーニング等）や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。		○		同法人事業所（パラレル）と連携を行い、ペアレントプログラムの実施を行っていた年もあったが、今年度は実施ができていない。家族等の参加できる研修の機会、情報提供を今後は行っていく。
	36	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。		○		支援プログラムについては速やかに公表できるようにする。
	37	放課後等デイサービス提供を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	○			
38	「放課後等デイサービス計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から放課後等デイサービス計画の同意を得ているか。	○				
39	家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	○		必要に応じて送迎時や面談を設け、随時相談を受け応じていく。		

保護者への説明等	40	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。		○		保護者会がないため、保護者同士の連携に対しての支援は実施できていない。今後も保護者会の設立予定はないが、保護者からの申し出があった際には検討を行う。また、親子参加、きょうだい参加などのイベントを企画し、繋がりを持つことができる場の提供を行っていく。
	41	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか。		○	重要事項説明書にて苦情解決の窓口の説明を行っている。また、施設内に苦情受付箱の設置を行っているが、苦情申し出はない状況である。	
	42	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信しているか。		○		定期的な通信の発行は行っておらず、HPやSNSの活用は積極的には行っていないため、今後検討する必要がある。
	43	個人情報の取扱いに十分留意しているか。		○		
	44	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。		○		
	45	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。		○		今後、要望に応じて検討を行う。
非常時等の対応	46	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。		○	各種マニュアルについては職員に周知はしている。保護者へは、回覧できるよう、玄関に掲示をしている。	
	47	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。		○		
	48	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等の子どもの状況を確認しているか。		○	年度初めに、服薬状況についてはプロフィールシートに記入していただき、把握している。変更等があれば、その都度、保護者から連絡をいただいている。	
	49	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。		○		
	50	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。		○	職員間で共有し、安全管理に関するチェックを定期的に行っている。また、送迎車の置き去り防止のための訓練も実施を行った。	
	51	子どもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。		○		玄関に掲示を行い、回覧できる状態になってはいるが、保護者に周知ができていない状況であるため、面談やLINE（連絡ツール）等を活用し周知していく。
	52	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。		○	事案が発生した際には、ヒヤリハット報告書作成、回覧、状況の報告を行い、事業所内で共有し、具体的な改善策等についての話し合いを行っている。	
	53	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。		○		
54	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載しているか。		○		現在、身体拘束を行っていない状況である。今後必要な際には、十分に検討した上で決定し、説明、了承を得た上で、計画書に記載する。	